



冬の飯豊へ（下山ルート偵察）

飯豊 西俣尾根～頼母木山（往復）

棚橋

【日時】 2008年11月22日（土）～24日（月）

【メンバー】 L棚橋、田村、佐貫

個人的には思いの強い山域である「越後」の「行きたいルート」は未だ残っているが、「冬の飯豊へ」の気持ちも頭から離れない。しかし気象条件等の厳しさから、私の経験や技術では敷居が高く、いつまでも憧れのままでいた。

しかし漸く「冬の飯豊へ」臨む気持ちが固まったので、山行の取り組み方に同調してくれそうな人に声を掛けたところ、私を含め4人が集まった。更に、山域に興味を示した栗原さんも加わり、5人パーティができあがった。

総会後に飯能駅前の喫茶店にて、日程、山行方針、本ルート、偵察および準備山行等についてのミーティングを行い、その殆どを決定した。年末に向けての第一回目となるこの山行は、下山ルートの確認と荷揚げ（少しばかりであるが）を目的としたものである。

11月22日 曇り時々小雨

昨夜、新宿を発って電車乗り継ぎ、坂町に着くも米坂線が10分以上遅れるとのこと。梅花皮荘行きのバスとの接続はタイトなので冷や冷やしたが、何とか取り返せたらしく、ギリギリ間に合った。一日に何本も無い町営バスなのだからJRと連携して、確実に接続させて頂けると有り難いのだが、いろいろ事情があるのだろう。

相変わらず雨がしとしと降っているので、梅花皮荘の軒先で準備をさせて頂き、下山係の大野君に西俣尾根からの往復にすることを伝えて出発する。民宿奥川入に挨拶をしたところ、先行パーティがいることを教えて頂く。雪が多ければ尾根の末端付近からの取付きもあるかと思っていたが、今の状況では全くその気になれない。そして標識に導かれて、夏道ルートより取付く。

登山道には雪が薄っすらと付いているが、岩



雨の降る中、スタート

場はしっかりと露出している。そんな急登箇所もトレーニングと位置づけ、各々気を付けて登る。先行パーティの壺足トレースを有難く使用させて頂き、Co700mを越え、そろそろワカンが欲しくなる頃に漸く追いつく。ここでワカンを着け、先行させて頂く。言葉を交わすと地元山岳会（福島登高会）の方々とのこと。お互いHPの記録は参考にしあっているの、初めてお会いしたような気がしない。

予想以上の積雪量で、太腿位のラッセルが続き、得をした気分である。途中からは福島登高会の方々との合同ラッセルとなる。西俣ノ峰にて、明日下山するという福島の方々と別れる。我々は頼母木山からの下降開始地点の偵察と、頼母木小屋に細やかながらデポしたい物があるので、先に進まねばならない。相変わらず先頭交代を繰り返しながら只管ラッセルを続けるが、西俣尾根に出てからは幾分行程も捗り、Co1100m付近にて今日の作業は終了とさせて頂く。

11月23日 曇り

今日は、風雨は殆ど無いものの視界はやや不良なので、程々のトレーニング日和といったところ。三匹穴までは、なるべく地形や景色を覚えながら進む。三匹穴に着くと、かなりの本数の竹竿がデポされている。どこかの会が、年末年始山行のために上げたものであろうか。

手短に一本取った後、少し進んだ所で隣の尾根に乗り換えることにする。灌木に赤布を付け、下山時のために竹竿も数本立てておく。隣の尾根は取付きがやや急なので、ドカ雪が降った後は嫌らしさが増すことを記憶しておく。

この辺りから視界は数十mほどなので、下山時のために竹竿を立てながら進むことにする。トラバースせずに尾根通しの往復を考えていた私と、頼母木小屋へ急ぐ他の二人で、やや認識のズレがあったものの、頼母木小屋に無事、予定していた物をデポすることができた。

視界は更に悪化し、完全に計器行



頼母木平周辺にて



頼母木山山頂



動となる。慎重に進んで、往路のトラバース地点に到着。年末年始山行のためには、頼母木山の辺りを確認しておきたいので、稜線を進むことにする。ここから先は一層慎重にコンパスを振り、地形を出来るだけ観察しながら進む。程なく海老の尻尾を纏った頼母木山山頂に辿り着いた。

下山もコンパスも振り、慎重に下る。そしてトラバース開始地点に打っておいた竹竿を見つけ、ホッと一息。ここからは道標に従っての計器行動トレーニング。三匹穴上部では、いろいろ意見を出し合ったが、登りに辿ったルートが一番良いのではないかと意見が纏まり、相変わらず視界は悪いが出来る限り辺りの地形を脳裏に焼き付けた。

下部側の尾根に戻ってしまえば、その後考えることは今晚の幕営地のことばかりである。私は昨晚泊まった所が、やや狭いながらも平らな上、風も当たらず良いと思っていたが、他の二人はより快適な西俣ノ峰までは降りる気満々なので、頑張っについて行くことにする。30分も進むと西俣ノ峰の登り返し手前の平らな場所が得られたので、ここを罫とする。

11月24日 曇り

長者原まで遠くはないが、さっさと出発する。西俣ノ峰の手前で一斗缶が五つほどと、かなりの本数の竹竿がデポされていた。行きには無かったので、昨日にでも上げたのであろう。どこかの会が合宿でも行なうのであろうか？

西俣ノ峰を過ぎ、復路も夏道ルートで長者原へ向かう。途中、視界が得られないと分り辛そうポイントに赤布を付けておく。また岩場の通過は、一昨日より確実に雪が減っているので、フィックスロープを頼って下降する。

登山道の分岐まで降りると、あとはサクサクと進み、行きと同様に民宿奥川入に下山の挨拶した後、梅花皮荘へ急ぐ。少々慌しく入浴したところ、9:13発のバスに乗ることができた。小国で速攻買出しの末、宴会モードにて車窓から見える山々の白さ具合を確認しながら帰京した。

山行方針決定から準備期間が短く、バタバタ感は拭えないが、期待以上の準備山行を行なうことができ、先ずは幸先良くスタートした。年始には、何としてもこのルートより元気に下山したい。

なお来週は、米坂線の車窓から様子で考えつく辺りで、スノーシューによるラットレ(本当に飯豊で使えるかの確認も含めて)を、3名のメンバーで行なう予定である。

【行程】

11/22 梅花皮荘(8:50)～登山道分岐(9:36)～十文字池(11:15)～西俣ノ峰(13:46)～Co1100C 1(15:17)

11/23 C 1(5:30)～大ドミ(8:13)～三匹穴(9:52/57)～頼母木小屋(11:50/12:18)～頼母木山(12:50/55)～三匹穴(13:55)～西俣ノ峰先Co1060C 2(15:57)



11/24 C 2 (5:28)～西俣ノ峰(6:09)～梅花皮荘(8:30)

【地図】 長者原、飯豊山、杵差岳

